

[8月度例会]

8月2日(木) 18:00~20:00

講演会：学名に親しむ～生物調査等の基礎知識として～

講師：安達 伸光 氏（上下水道）JFE エンジニアリング(株)顧問

1. 学名に親しむ～生物調査等の基礎知識として～

1) きっかけ 環境モニタリングや上下水道では水源調査、処理機能チェックなどで学名が出て来るが、とっつきにくいことが動機となった。

2) 分類体系と構成など (1)生物の分類体系：ドメイン・界・門・綱・目・科・属・種が基本である。現在は、真核生物・真正細菌・古細菌の3つのドメインがある。(2)何の仲間：蜻蛉目、半翅目、ブナ科（ドングリ）、サクラ属で「仲間」の紹介。(3)学名の構成：18C.のリンネにより、ラテン語の二名法となる。属・種・亜種・変種・品種、命名者名・発表者名・連名、Hybrid などの記載法の説明があった。

3) 学名のルールなど (1)命名の基準：国際藻類・菌類・植物命名規約・国際動物命名規約・国際細菌命名規約は3つ。植物等は反復名禁止、動物は反復名が許される。反復名（鳥に多い）などの事例紹介：カササギ (*Pica pica*)・マンボウ (*Mora mora*)・インドコブラ (*Najana naja*) (2)属名と種名の関係：名詞の属名+後の形容詞の種名、事例紹介(3)ラテン語が基本(4)イタリック体で表記 (5)SEX (性)：属名の性 (男性・女性・中性) にあわせ、後ろの形容詞の種名が変化性による語尾変化の例：-us, -anus (男性)・-a, -ana (女性)・-um, -anum (中性) (6)属名表記の省略形：2度目に出て来る属名は、「頭文字」と省略されることが多い。(7)sp.と spp.：属名+sp.は、その属の種が1種、spp.は複数種混ざっている (種の判別不能など) (8)先取権：同物異名などの場合、先につけられた学名が優先される (9)命名者等表記の省略形：命名者等も簡略して記載する。「L.」はリンネのみ、Sieb.Thunb.Maxim.など。

4) 学名と和名のいろいろ 標準和名と地方名、花のカタカナ名、面白い学名、間違い記載などがある。例えばアマダイ・グジ、ミズメ・梓・夜糞峰榛、コスモス・カトレア、梅、銀杏・コマドリとアカヒゲなど。

5) 学名の意味の具体例 色、数、形、大きさ、形、ラテン語・ギリシア語等、神話、国・地名、人名など。

6) 小種名が同じ植物 「sibold」(シーボルト)、「sativa」(栽培された)の事例

7) 異種同名クイズ 和名が同一読みの、魚類(11種)と植物(鳥が1種)を写真で組み合わせる。赤佐・藜、雉羽太・榕、大鯿・於瓢、鎌柄、黄肌・黄檗、権瑞・権翠、鱒・椹、縞鯨・縞味、須義・杉、鯛・蓮、鮫・椈が答えであるがレジユメには答えはなく、聴講者が各自記入して、講師が最後に口頭で回答された。

2. APG 体系～被子植物分類での大改革～

1990年代以降にDNA解析による分子系統学が大きく発展し、これまでの形態や発生状況などによってきた分類体系よりも、この手法が主流になっており、分類群の再編が行われている。

APG 体系については、学名との関わりにおいて同時に講演を頂いたものである。

本編の概要は、近畿上下水道部会のホームページをご参照下さい。

(要約：天野 武日古)